

EURODYN 2023 参加報告

大学院理工学研究科 博士前期課程 都市システム工学専攻 2年 佐久間 栄己



理工学研究科博士前期課程、都市システム工学専攻2年の佐久間栄己と申します。私は、2023年7月2日～5日にオランダのデルフト工科大学にて開催された EURODYN2023 (XII International Conference on Structural Dynamics) に参加しました。本稿では、国際会議への参加を通じて感じたことを報告させていただきます。

私が国際会議に参加する機会をいただいたのは、今回で2回目となります。昨年、Asia-Pacific Workshop on Structural Health Monitoring (APWSHM) という国際会議への参加機会を頂きましたが、Covid-19の影響により現地で発表することはできませんでした。今回の国際会議では、海外渡航が可能となり、現地での発表を含めて参加することが出来ました。

会議は、4日間行われました。1日目はウェルカムレセプション、2日目はデルフトの旧教会にてオープニングセレモニー、2日目午後から4日目にかけてパラレルセッションが開催されました。

この会議は、Structural Dynamics (構造物の振動) に関する研究発表会であり、その研究領域は広く、建築構造物だけでなく自動車、飛行機の振動制御、システム同定・損傷検出から振動音響や歩行振動など様々なセッションがありました。そのなかで、私は、Human Induced Vibrations in Floors、Staircases and Stadia (床、階段、スタジアムにおける人間に起因する振動) のセッションにおいて、「Evaluation of Evacuation Possibility During Earthquake based on Seismic Response Analysis Model of Human Body Considering Walking and Falling」(歩行と転倒を考慮した人体の地震応答解析モデルに基づく避難行動可能性評価) という題目で発表しました。人間行動に起因する振動に対する構造物の応答に関する研究発表が多いなかで、私の研究は、振動に対する人体応答そのものに注目した研究であり、同セッションに参加する研究者の方々も私の研究に興味を持っていただけたように感じました。発表が無事に終了した後に、海外の研究者の方から、「良い発表だった。面白い研究をしていますね」と言っていたときは、大変嬉しく思いました。

会議の3日目には、15世紀頃にデルフトのマル

クト広場に建設された新教会にてパーティが開催されました。歴史ある教会で、世界の研究者たちと交流できたことは、大変有意義な時間でした。

また、初めての経験は、会議参加だけではありませんでした。私は、今回が初めての海外渡航だったため、オランダの雰囲気や街並み、建築物、運河と都市の風景など、目に見えるものがすべて刺激的でした。建築作品集で見ていた建築物を実際に空間体験できたことは、貴重な経験であり、建築への関心を再度認識する機会ともなりました。

最後に、この国際会議への参加の機会を与えていただきました肥田先生には、心より感謝申し上げます。また、論文執筆、発表準備から現地での発表に至るまで、温かいご指導を賜り、誠にありがとうございました。

多賀工業会の皆様、この度は、奨学一時金(国際会議参加費支援)のご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。今回の経験を活かし、今後の研究活動にも精進してまいります。

末筆ながら皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。



写真1 発表の様子



写真2 会議3日目 パーティの様子



写真3 デルフトの街並み



写真4 国際会議会場 デルフト工科大学